

研究タイトル：

高等専門学校国語学習材の開発研究



氏名： 黒澤 佑司 / KUROSAWA Yuji E-mail: kurosawy@sendai-nct.ac.jp

職名： 准教授 学位： 修士(文学)

所属学会・協会： 全国大学国語教育学会, 日本国語教育学会, 日本近代文学会 ほか

研究分野： 国語教育, 日本近代文学

キーワード： 国語教育, 日本近代文学創成期研究

 技術相談
 提供可能技術：

- ・高等専門学校における国語教育実践
- ・中等教育学校における国語教育実践
- ・日本近代文学創成期研究

研究内容： 国語教育研究と文学研究の相互乗り入れによる授業や学習材の開発

研究課題 高等専門学校学生へ最適化された国語コンテンツ/コンピテンシー醸成についての考究

研究シーズ

高等専門学校に奉職するまでの間は高等学校・中学校に勤務し、主に大学受験を見据える生徒たちがいかに適切な国語関連の資質や能力を体得させるかを考究してきました。具体的などころでは、文系大学に進学を希望する生徒への学習指導・モチベーションづくりを多く経験。たえざる高大接続改革の紆余曲折を前面に受ける生徒たちのバックアップをいかによいかたちでできるのか、大学の先生や予備校で教鞭をとる先生方との議論や情報共有も重ねながら指導にあたってきました。一方で、いわゆる「受験国語」にとどまらず、国語という教科をとおしてどのようなコンピテンシーを身につけることが大切なのか、というアポリアにも向き合ってきました。そのなかで、ややもすれば大学受験におけるキャッチーなツールとしてこの国語という教科を利用しようと考えてしまいがちな理系分野の生徒たちへの教育実践をする機会もあり、その経験をとおして前述のアポリアをさらに深く考究していこうという意志が芽生え、現在の境遇に至ります。

本校は工学系学生をあずかる環境にあり、国語という教科はそのなかでも「傍系」にあたると思われがちですが、物事を深くかつしなやかにまなざし、その見地からより高次を見据えるコンピテンシーの根幹を養成するための重要な役割をになうものだと考えています。この学生たちに、どのようなコンテンツで、どのようなコンピテンシーを体得させることが適切なのか、日々実践を重ねながら考究しています。また、国語教育にたずさわるにあたり下地として長年かかわってきた日本文学研究における成果と課題を、高専国語教育のありようと併行して考究しつづけることで、よりよい授業提供に資することを期しています。これらをおし得られた知見を活かし、中長期的ビジョンにおいて、高等専門学校での国語教科に特化したテキストを開発することを目標としています。今後は、高等学校1学年相当年次から社会・高等教育機関に接続する5年次までの学生たちに最適化されたテキストの内実を見定め上梓し、それをを用いた教育実践をとおして、高専生に求められるコンピテンシーのありようを追究し、その育成に期していきたいと考えています。

これまでの成果・実践例

- ・「日本文学における〈翻案〉とその教育のありよう」〈口頭発表〉(令和3年度第3回本校教育研究交流会 2021年10月)
- ・「学生の〈主体〉をゆさぶる教育実践—村上春樹「鏡」の読解をとおして—」〈教育実践論文〉
(本校『研究紀要』第58号 2022年3月)
- ・国語総合「土佐日記」〈研究授業〉(第21回視聴覚教育総合全国大会・第68回放送教育研究会全国大会 2017年)
- ・〈文学〉の可能性／〈教材〉の政治性—中学三年生教材「故郷」「いちご同盟」をめぐって—(バネリスト)
(東北大学文芸談話会 シンポジウム「教材としてのカノンを問い直す—近現代篇—」2010)

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)